

レトロなプチトリップ
美味しい!と
世界遺産巡り
明治日本の
産業革命遺産

旧集成館

日本人のモノづくりはココから
磯エリア

きゅうしゅうせいいかん

①旧鹿児島紡績所技師館(異人館)
きゅうかごしまぼうせいせきしょじしかん (いじんかん)
鹿児島市吉野町 9685-15 Tel.099-247-3401
◎ 8:30 ~ 17:30 無休
入館料金 200 円

②旧集成館機械工場(尚古集成館)
きゅうしゅうせいいかんきかいこうじょう (しょうこしゅうせいいかん)
鹿児島市吉野町 9698-1 Tel.099-247-1511
◎ 9:00 ~ 17:00 無休
入館料金 1000 円 (仙巖園・旧集成館機械工場
(尚古集成館) と共通)
※尚古集成館 本館は 2024 年 10 月まで
耐震・リニューアル工事のため休館

③旧集成館反射炉跡
きゅうしゅうせいいかんはんしゃるあと
鹿児島市吉野町 9700-1 Tel.099-247-1551 (仙巖園)
◎ 9:00 ~ 17:00 無休
入館料金 1000 円 (仙巖園・旧集成館機械工場
(尚古集成館) と共通)



薩摩と日本の国力を支えた旧集成館

幕末に欧米列強が力を増すなか、日本の南の玄関口に位置する薩摩藩は防衛面で危機感を募らせていた。嘉永 4 年 (1851) に薩摩藩主となった島津斉彬は、富国強兵のための工場群・集成館を現在の鹿児島市磯エリア、仙巖園内に整備。大砲製造の目的で開発された

反射炉をはじめ、紡績、造船、活版印刷など当時最先端の技術が集結した一大拠点だった。事業に関わる産業遺産群は旧集成館と呼ばれ、今も鹿児島内外の人々の注目を集めている。幕末の鹿児島の人々の知恵と情熱が詰まった施設を見にいこう。

① 日本初の洋式紡績工場を支えた技師の宿舎

慶応 3 年 (1867)、第 12 代薩摩藩主忠義が建設した鹿児島紡績所ゆかりの地。技術指導で招かれたイギリス人技師の宿舎として建てられた。内部見学では、和洋折衷の建築様式に注目しよう。

② 現存する日本最古の洋式工場建築物

薩英戦争後の慶応元年 (1865) に建てられた機械工場の遺構で、当時は金属加工などが行われていた。現在は島津家関連資料や、集成館操業当時の様子を紹介する歴史博物館になっている。

③ 幕末の一大チャレンジ! 薩摩製反射炉

大砲製造に必要な鉄を溶かすための炉の跡で、仙巖園入り口のすぐそばにある。オランダの書物を参考に、耐火レンガ、城郭の石組み技術などを使って独自開発された。現存するのは基礎部分。

1皿10本
600円



ちゃんぼ餅 平田屋

ちゃんぼもち ひらたや

丸めた餅を 2 本の串に刺して焼き、熱いたれをかけた郷土名物・両棒 (ちゃんぼ) 餅の人気店。桜島を背景に錦江湾を望むロケーションで、餅からたれまですべて手作りの両棒餅を味わって。
鹿児島市吉野町 9673 Tel.099-247-3354
◎ 9:30 ~ 16:30LO (売り切れ次第終了) 木曜休

おやつはココで



スターバックスコーヒー 鹿児島仙巖園店

すたーばっくすこーひー かごしませんがんでん

仙巖園に隣接する国の登録有形文化財・旧芹ヶ野島津家金山鉱業事業所の建物を活用。桜島が見える 2 階席や薩摩切子をモチーフにした内装など、地元の歴史を感じられる空間で休憩を。

鹿児島市吉野町 9688-1 Tel.099-248-6551
◎ 8:00 ~ 21:00 不定休